
種別 : 個人
氏名 : 山本 健

ASBJ 対応につきお願いがありメールをさせていただきます。

現在、ASBJ(会計基準を考える団体)より、ストックオプション会計基準の改定(実務指针对応)が提案されていますが、この内容があまりにも「勢い」を知らないものであり、このままでは上場企業が発行するストックオプションだけでなく、未上場企業が発行するストックオプションまで費用計上される流れが作られてしまう可能性があります。

今回対象となっているストックオプションは、有償時価発行新株予約権で、一義的には上場企業の会計処理の変更を求めています(費用計上化)、これが通ってしまうと、未上場企業のストックオプションの費用計上化の流れができてしまう可能性があります。

私は長年、証券界で平成9年の商法改正によるストックオプションから関わってきました。特に未上場企業による費用計上化は、上場も出来ていないのにインセンティブを無くしてしまうものですし、そもそも未上場企業の株価の算定も各人によって違います。上場企業の株価は、取引があれば、市場で開示されます。要は第三者が評価しているものに対し、未上場企業の株価は恣意性が働き易くなります。何時ものことですが、上場審査も厳しくなっています。

まさに、安倍総理が主張している成長戦略に水を差すものだと考えます。

山本 健